

読解力を核とした授業

～加賀市の予算から地方財政を考える～

社会 第3学年

加賀市立錦城中学校

1 事例の概要

本校は「確かな学力」としての「生きる力」の育成をめざした研究を、ここ数年続けている。従来の「基礎・基本」を大切にした授業づくりに加え、近年は生徒達がこれまで学び、身につけてきた知識・技能を活かして課題に取り組む授業づくりにも取り組んできた。

そのような授業を実践するために、今年度も「読解力」を授業の核に据えた授業づくりに全教科で取り組んでいる。社会科でも、「読解力」が求める様々な力の育成のためにどのような学習活動が考えられるのかを教科部会で検討してきたが、「資料を読み解き、文章として表現し発表する力」、「自分の意図を資料として作成し、発表する力」、「他者の発表を客観的に受け止め、自己の学習を高めていく力」を社会科としての「読解力」と捉え、生徒が主体的に課題に取り組めるよう工夫してきた。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・地方自治の基本的な考え方を理解し、議会制民主主義の意義について考えようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・まちの財政状況やしくみを理解し、自分のまちをより住みよくするための方策を考える。
(思考・判断)
- ・自分の町の情報を表す資料を的確に読み取り、その特徴をつかまえる。
(技能・表現)
- ・地方公共団体の政治のしくみについて理解し住民としての自治意識を身につけるとともに、地方公共団体のしくみと住民の権利や義務とを関連させて理解する。
(知識・理解)

(2) 指導上の工夫点

① 指導法の工夫

- ・地方自治の課題を、身近な加賀市の問題と関連づけて考えられるよう、具体的なグラフ・統計資料（加賀市の予算）などを効果的に用いた。
- ・どの生徒も意欲的に学習に取り組めるよう課題に応じて、グループ学習などを効果的に取り入れるなど学習形態を工夫した。その際、スムーズにグループ学習に取り組めるよう、事前に役割分担を提示した。
- ・生徒が考え、まとめあげた加賀市の方策が、生徒にとって身近なものになるようゲストティーチャー（加賀市行財政課）のお話をいただいた。

② 「読解力」の視点から

- ・加賀市の財政を例にあげながら地方公共団体の財政の課題をつかませ、中立性に留意しながらその解決策について主体的に関わるという視点から、生徒が考え発表するようにした。
- ・発表の際には「キーワード」を提示させ、自分の言葉でグループの考えを発表するようにした。

B-1 指導・評価計画

3 指導の実際

学習活動	指導上の留意点	評価（観点・方法等）
<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに加賀市の財政の特徴を読み取ろう！ ・加賀市の財政をより良くするための方策を考えよう！ 		
<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市の歳入、歳出の特徴を読み取る。 ・加賀市の財政をより良いものにするための方策を考え発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・歳入、歳出の資料を踏まえて考える。 ・グループ内で役割（司会、発表者など）をあらかじめ決めておく。 ・「キーワード」を提示しながら、発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーのお話を聞く。 ・まとめを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を絞り、あまり時間をかけすぎないようにする。 ・民生費などの用語説明をする。 ・話す内容、時間など市の方としっかり打ち合わせをしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から、加賀市の歳入、歳出を読み取ることができる。（技能・表現） 【観察、ワークシート】 ・加賀市の財政をより良くするための方策を考えることができる。（思考・判断） 【観察、ワークシート】

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 歳入の資料の読み取りは、はっきりとした特色が読み取りづらかったが、歳出の資料の読み取りは、どの生徒もできたように思われる。
- ② 今後の方策を考える課題は、グループ内の役割分担を示したことにより、比較的スムーズに取り組むことができた。
- ③ グループ学習では、生徒たちが意欲的に意見を出し合い、ある程度課題に迫ることができた。
- ④ 発表では「キーワード」を提示し、発表者が自分の言葉で発表することができた。生徒が考え出した方策も単純なものではなく、しっかり考えられた方策が多かった。
- ⑤ 加賀市の行財政課の方にゲストティーチャーとして授業の最後にお話をいただいたが、そのことで生徒の考えがより身近なものになったように思われる。

(2) 課題

「読解力」の育成を考える時、どのような学習活動が求められるのかを授業者が明確にして授業を組み立てることが重要である。そのためには、「読解力」という言葉でくくられている個々の能力を明らかにし、「どの単元（教材）で、どのような能力を」育てられるのか、教科として共通の目安を持たなければならない。また、その手段としての学習活動や学習時間、発問も磨き上げる必要がある。このような視点からいうと、本時の授業はまだ満足のものではない。これからも社会科として共通の認識を持って、どのような能力を育てるべきなのかを検討していきたい。